



自然を  
楽しむ

⑦

「詰め草から牧草へ」

北村 豊

(小布施町栗ヶ丘)

レッドクローバーが今、千曲川堤防で咲いていますが、葉が細長くて先が尖る特徴があります。

クローバーは、明治時代に蛋白や脂肪も多く含んだ優れた“牧草”として日本に移入されました。

北海道の弟の農場でも、イネ科のチモシーとマメ科のレッドクローバー等を混播することで収量や家畜の栄養バランスの優れた草地を作っています。

和名のツメクサは、江戸時代にオランダのガラス製品の割れ防止の詰め草とした事に由来します。